慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	欧洲各国の生活費
Sub Title	
Author	池田, 龍蔵
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.5 (1922. 5) ,p.660(80)- 667(87)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220501-0080

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

戰後に於ては、農業勞働者、飲食料品製造業勞働者、海員、郵便從業者等に關する四つの組合を增加した。從來此種の國際的聯合會の職分とする所は（一）同盟罷業に於ける援助――金錢に依る援助を普通とし、時にはブラックレッグの製品に對して、ボーイコットを行ふ（二）ブラック、レッグの輸入を阻止する、（三）組合員の或る者を外國に移住させる、（四）共同の綱領の採用される點に盡力することの諸項に外ならなかつたが、戰後に於ては、新に戰爭を否認することゝ、事業を社會の所有に移すことの二項が加へられ、殊に社會有の一事は坑夫組合に依つて、熱心に主張されるに至つた。

歐洲各國の生活費

在倫敦　池田龍藏

生活費問題

今日の世界經濟を云々するに當り世人は兎角財政や貿易や金融や勞働爭議等を高唱して生活費問題を疎外するのはその研究が如何にも地味で出來榮がなく且つ調査に困難だにしろ誠に遺憾な事と云はねばならぬ然し如何に此の問題が冷淡視されても凡有る經濟問題中最も根本的だと云ふ點に於ては少しも變はないのであるそんならば何故之が根本的であるかと云へば世界經濟は第一に個人の經濟生活に初まりその生活は生活費によつて支配されるからであると云ふ事は餘り喋々を要せぬ所である而して此の生活費問題は中產階級無產階級にとりては最も緊切な問題であり從つて爲政者及び中產無產階級を相手とする資本家にとりても重要な問題であると云はねばならぬ。

歐洲生活費の二傾向

世界物價の趨勢は戰前に於ては殆んど同一方向であつたが戰後に至つて紙幣の濫發による金準備の不足、爲替の不利、生產並に交通組織の破壞等の爲めに國際間の物資の流通に圓滑を缺き遂に此の原則が破れて玆に二大潮流が現出し然も各反對に走つて居る從つて此の海流に棹さす生活費も同じく二樣の傾向を帶ぶるに至つた今歐洲の生活費に就て通觀するに前述の世界の大勢と同樣二種に分類して見る事が出來るが大觀すれば歐洲に於ては其の程度に於て生活費騰貴國の方が甚しく然も近世經濟史に於ては全く見る事出來ぬ慘憺たるものである。

今歐洲各國の生活費を研究するに當り其の指數をウイルトシャフト、ウント、スタテスチック、レーボアガゼット其他各國の報告書で涉獵したが多少學問的に取扱ふ爲めに大體昨年の各月を通じて解つて居る國の生活費に就て通觀して見たい。

生活費低下國

生活費が大體に於て低下して居る國は中立國又は交戰國にしてもその爲替が酷く下落せぬ國々であるがその實例として今和蘭、英國、瑞典、諾威、伊國及び白耳義の六ヶ國を擧げて見る。

以下に列記する生活費指數は大體一九一四年七月即ち戰前を一〇〇としたものである。

和蘭

アムステルダムに於ける勞働階級に對する食料品小賣相場の一九二一年各月及び一九二二年一月の指數左の如し

	一月	二月
一九九		一九九

三　月	一九九	九　月	一八四
四　月	一九〇	十　月	一七三
五　月	一八八	十一月	一五九
六　月	一八六	十二月	一五二
七　月	一八五	一　月	一五二
八　月	一八四		

今年の一月には戰前に比して五二ポイントだけの騰貴で昨年中には四七ポイント下落して居る而してその漸落の一路を辿つた事は殊に注意すべき點である

英　國

英國勞働階級の一九二一年の食料品小賣相場及び一般生活費指數次の如し

	食料品	一般生活費
一月一日	二七八	二六五
二月一日	二六三	二五一
三月一日	二四九	二四一
四月一日	二三八	二三三
五月一日	二三二	二二八
六月一日	二一八	二一九
七月一日	二二〇	二一九
八月一日	二二六	二二二
九月一日	二二五	二二〇
十月一日	二一〇	二一〇
十一月一日	二〇〇	二〇三
十二月一日	一九五	一九九
十三月三十一日	一八五	一九二

昨年末に於て食料品は戰前に比し八五の騰貴で昨年の一月に較べて九三の低落で食料品を含んだ一般生活費に就ては戰前より九二の騰貴で一ヶ年中に九三の下落である大體に於て漸落して居るが和蘭程規則的でない、尙一九二二年二月一日現在の食料品指數は一七九で一般生活費は一八八である

瑞　典

一九二一年の各月及び一九二二年一月に於ける中流家族の食料品、熱料燈料の指數下の如し

一　月	二八三	四　月	二四八
二　月	二六二	五　月	二三七
三　月	二五二	六　月	二三四
七　月	二二二	十一月	二一一
八　月	二三四	十二月	二〇二
九　月	二二八	一　月	一九〇
十　月	二一八		

戰前に比し今年一月には九〇の騰貴で一九二一年中には九三下落して居る八月が前月より二ポイントだけ騰貴しただけで大體漸落して居る

諸　威

勞働階級の食料品の一九二一年中に於ける指數以下の如し、

一　月	三三四	七　月	二九二
二　月	三〇八	八　月	二九七
三　月	二九九	九　月	二九〇
四　月	三〇〇	十　月	二八八
五　月	二九二	十一月	二八一
六　月	二九〇	十二月	二六八

戰前に比し昨年十二月には一六八の騰貴で一ヶ年中に六六の下落である一ヶ年中の趨勢を見ると前述の蘭、英、瑞三國よりは大部不規則的の推移をなして居る

佛　國

巴里に於ける食料品熱料及び燈料の一九二一年各月及び一九二二年一月の指數左記の如し

一　月	四一〇	八　月	三一七
二　月	三八二	九　月	三二七
三　月	三五九	十　月	三三一
四　月	三二八	十一月	三二六
五　月	三一五	十二月	三二三
六　月	三一二	一　月	三一九
七　月	三〇六		

即ち今年一月には戰前より上る事二一九昨年一ヶ年中に下る事八七である全く規則的の低落をして居らぬのは同國の目下の經濟事情より推して無理ならぬ事である

白耳義

一九一〇年に一日五法以下の收入ありし下級家庭に用ひらるゝ食料品の一九二一年各月の指數を左に掲ぐ

一　月	四九三	二　月	四八二

三月	四三四	八月	四四七
四月	四一七	九月	四二三
五月	四〇七	十月	四三四
六月	四一九	十一月	四四二
七月	四一〇	十二月	四三八

戰前に比し十二月には三三八の騰貴で一ヶ年中に五五の下落である

今以上の六ヶ國の食料品小賣相場（但し瑞典及び佛蘭西は熱料及び燈料をも含む）に就て比較するに騰貴の程度は白耳義の四倍を筆頭に佛國、諾威、瑞典、英國の順に和蘭の一倍半が殿で昨年一ヶ年間の下落の程度は瑞典の九三から英國（英國は一月一日と十二月三十一日と比較すれば同じく九三の下落なるも今年の一月一日が月曜日なりし爲め便宜一日だけ繰上げしものなれば今年の一月一日の調査とも見るを得べし）佛國、諾威、白耳義と來て和蘭の四七が最少である、

生活費騰貴國

以上は歐洲の生活費低下國の實例であるが騰貴國の程度は下落國に比して激甚である中部東部歐洲諸國は皆その分類に入るが以下に伊太利波蘭獨逸波蘭の指數を瞥見する事にする

伊太利

フロレンスに於ける一九二一年中の指數下に示さん

	食料品	一般生活費
一月	四九二	四五四
二月	四八四	四五四
三月	五一七	四七五
四月	五二二	四八五
五月	五二三	四八四
六月	四八一	四四七
七月	四五一	四二八
八月	四六五	四三六
九月	四八八	四四四
十月	五二〇	四六九
十一月	五三二	四七七
十二月	五一二	四七七
八月	一、三二四	一、一七五
九月	一、三五九	一、二〇五
十月	一、三五七	一、二〇八
十一月	一、二八六	一、二六二

前記の一般生活費は食料品、熱料、燈料、家賃、被服及び煙草代だけでその他の雜費用を含まぬ食料品に於ては十一月には戰前に比し一、一八九即ち十二倍半以上昨年の一月よりは一一五の騰貴である、一般生活費に於ては戰前に比し一、〇六二即ち十一倍昨年の一月に比しては九七の騰貴である、

獨逸

獨逸に於ける五人家族の食料品、及び一般生活費（食料、熱料、燈料及び二部屋一臺所の家賃）指數を以下に示さん

	食料品	一般生活費
一月	一、二六五	九四四
二月	一、一九一	九〇一
三月	一、一七四	一、〇六五
二月	一、一〇七	一、〇一三
三月	一、一三七	一、〇二五
四月	一、一〇七	一、〇〇八
五月	一、一一七	一、〇一八
六月	一、一四七	一、〇五一
七月	一、二七八	一、一三九

食料品小賣相場に於ては戰前に比し四一二即ち五倍餘の騰貴で昨年一ヶ月中には二〇だけの騰貴である食料品、熱料、燈料、家賃、被服費其他を含んだ一般生活費は戰前より三七七即ち四倍半餘上つて居り昨年一ヶ年中に二三上つて居る大體一九二一年中に餘り激しい昇騰はして居ない

芬蘭

芬蘭に於ける五人家族の生活費指數を以下に掲ぐ

三月	一、一八八	九〇一	一月	二五、一三九	六月　三五、三九二
四月	一、一七一	八九四	二月	三一、八二七	七月　四五、六五四
五月	一、一五二	八八〇	三月	三二、八八二	八月　五三、一〇〇
六月	一、一七五	八九六	四月	三一、七一〇	九月　六〇、七二八
七月	一、二七四	九六三	五月	三二、六三九	十月　七五、一八一
八月	一、三九九	一、〇四五			
九月	一、四一八	一、〇六二			
十月	一、五三二	一、一四六			
十一月	一、九一四	一、九七三			
十二月	二、〇八八	一、五五〇			
一月（一九二二年）	二、二一九				

食料品は今年の一月には戰前より一、九八八即ち二十倍半以上昨年中には七二三の奔騰である一般生活費に於ては昨年の十二月には戰前に比し一、四五〇即ち十五倍半一ヶ年中に六〇六の騰貴であるたゞ茲に一言すべき事は獨逸の家賃である家賃は法律で制限してあるので戰前に比して僅かに三〇％しか騰貴して居らぬ

波蘭

波蘭に於ける四人家族の勞働階級の食料品指數を次に列記せん

家賃	二〇〇	三八〇	六〇〇		
燈燃料等	五、〇〇〇	五、三〇〇	一〇、七〇〇		
其他	五、三〇〇	六、七〇〇	一三、五〇〇		
平均	八、一〇〇	九、八〇〇	二〇、五〇〇		

十一月には平均が二五、〇〇即ち戰前の二百五十倍である尙一九二一年の年始と年末の小賣相場の對比を見ては駭心銷魂する外ない、

	一月一日	十二月三十一日	對比
	（單位グローネ）		
麭麵（二封度）	六	七三	一二倍
牛肉（一キログラム）	二〇〇	一、一〇〇	五五倍
豚脂（一キログラム）	三〇〇	二、二〇〇	七倍
馬鈴薯（一キログラム）	七・二〇	九〇	一二倍
卵（一個）	一一	一五〇	一四倍
瓦斯（一立方メートル）	五	六〇	一二倍
石炭（一キログラム）	四・二〇	四〇	九倍
木炭（一キログラム）	二・七〇	二五	九倍

即ち一ヶ年中に多きは五十五倍より少きは七倍と云ふ驚くべき奔騰である、尙電車は一月一日に三クローネであつたものが十二月三十一日には三十クローネとなつた生活費の金額から云ふと戰前（一九一四年七月）には下級の生活費は四人家族で一ヶ月一六三クローネであつたものが一九二一年の一月には一〇、三七五クローネとなり同年の十二月末には九七、三七五クローネとなつた。

	一九二一年三月	同六月	同十月
食料品	八、一〇〇	九、八〇〇	二〇、七〇〇
衣服	一五、四〇〇	一八、五〇〇	三八、四〇〇

（一九二二年二月二十三日稿）

ジョン・ラスキンの奢侈論（一）

奥井復太郎

佛蘭西の經濟學者ジード氏は富（wealth）と云ふ言葉には享樂（enjoyment）と云ふ觀念の外に權力（power）と云ふ觀念が含まれてゐると說く。富を追求するに當つて若し單に消費的享樂丈けが齎されるものとすれば享樂には一定の限度があ